

講義名	19 - 国際経済論 / 15 - 貿易論			
担当教員	竹内 信行			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

経済のグローバル化が進んでいる中、私たちの生活は「国際経済」と切り離して考えることができません。例えば、身の回りの商品の多くが輸入品であったり、急激な円安によって海外ブランド商品が買いつらくなったり、というように私たちの身のまわりには「国際経済」に関する現象が数多く潜んでいます。本講義では、こうした現象を正しく理解するために「なぜ貿易をするのか?」「貿易黒字・赤字の意味とは?」「貿易政策の効果とは?」といった国際経済学の基礎を解説していきます。取り扱う内容の多くはミクロ経済学の知識を基にしており、複雑で難解な面もありますが、丁寧な解説を心がけ、楽しく学んでいけることを目標にします。

到達目標

国際経済学の基本的な知識の習得を目指し、以下の諸点ができるようになることを目指します

(1) 貿易黒字 / 赤字の意味を正しく理解できるようになる
(2) 比較優位の考え方を自分で説明できるようになる
(3) 貿易政策の効果について理解する
(4) 貿易と経済発展の関係について理解する

提出課題

原則、毎授業後に
・学習内容に関する確認問題
・授業で学んだことや感想・質問に関する自由記述
の2種類の課題を出題します (respon もしくは 小レポートとして実施する予定です)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

毎回課される課題のでき具合や回収した感想・質問は、授業内で講評したり授業計画の修正の参考にしたりします。また、確認問題に関してはその解答・解説を公開します

評価の基準

・平常点 : 40 % (毎回の課題の提出状況や、その取り組み具合などで評価)
・定期試験 : 60 %

履修にあたっての注意・助言他

・「バツと聞いて分かる」というよりは「じっくり考えてから分かる」ことが多い学問です。そのため、授業内容の理解には「根気」と「努力」が必要になります
・授業の内容上、数式や図表を用いることがあります。それにともなって必要となる数字については適宜、説明を行います
・毎回の授業は、連続ドラマのようにそれまでの授業内容を前提とした「続き物」になっています。そのため、授業内容が途中で分からなくなると、授業自体がつまらなく辛い時間になってしまいます。大学の授業は皆さんにとって初めて聞く内容が大半であり、最初から分らないのは当たり前です。恥ずかしがらずに積極的に質問をし、疑問点は早めに解消していきましょう

教科書					

プリント資料及び参考文献

ハンドアウトを配布するため、教科書は必要ありません。しかしハンドアウトだけでは不安に感じる方は、下記にあげる参考文献の中から自分にあったものを用意してください

石川雄大、松寛、菊地衛 『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣、2013年
中北憲 『国際経済学入門 21世紀の貿易と日本経済をよむ』筑摩書房、1996年・
伊藤元重 『ゼミナール国際経済学入門 (改訂3版)』日本経済新聞社、2005年・
濱田隆平 『貿易コース 国際経済学』新世社、2004年
若杉隆平 『国際経済学入門 第3版』岩波書店、2009年・

授業計画

第 1 回 国際経済と日本 - イントロダクション -
第 2 回 ある国の経済活動とは? - 経済循環図とマクロ経済学入門 -
第 3 回 三面等価の原則と IS パランス
第 4 回 貿易黒字/赤字 のさまざまな見方
第 5 回 国際貿易論入門 (1) 何を輸出して、何を輸入するのか? - 絶対優位説と比較優位説 -
第 6 回 国際貿易論入門 (2) 比較優位説 (続き)
第 7 回 国際貿易論入門 (3) 交易条件と比較優位
第 8 回 国際貿易論入門 (4) 産業内貿易と規模の経済
第 9 回 貿易政策入門 (1) さまざまな貿易政策と分析の準備 (需要曲線と消費者余剰)
第 10 回 貿易政策入門 (2) さまざまな貿易政策と分析の準備 (供給曲線と生産者余剰)
第 11 回 貿易政策入門 (3) 関税・輸入税
第 12 回 貿易政策入門 (4) 生産補助金の効果
第 13 回 貿易政策入門 (5) 貿易政策のまとめ
第 14 回 貿易と経済発展
第 15 回 これまでの学習のまとめ

授業予定の消化より受講生の理解の方を優先するため、授業計画通りに進まない場合もありますが、あらかじめご了承ください

授業形態 (アクティブ・ラーニング)

ア: PBL (課題解決型学習)	イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他 (A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

下記を目安に復習を中心にして準備学修に取り組んでください。

- ・授業内で使用したハンドアウトを用いた学修内容の復習する (1.5 時間程度)
- ・毎授業後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
- ・授業で学んだこと、質問事項などをまとめる (0.5 時間程度)
- ・確認問題の解説を確認する (1 時間程度)

特に、授業等を通して人から教えてもらっただけでは「分かった気」になってしまい、いざという時に学習した事を生かすことができません。内容をしっかりと理解するには「その内容を他の人に説明できるようになる」ことを目指して復習することが大切です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業での学修は、学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の養成を目指したものである。特に、経済学部の科目として「社会に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察できるようになる」「世の中の動きを理解し、現代社会の経済問題に関して解決策を考えるための基礎知識を習得する」ことを目指している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用した教材や課題の解答・解説等は適宜、RYUKA Portal で公開していきます。授業の復習などに活用してください

実務経験の有無及び活用

備考

・新型コロナウイルス感染症の流行などの社会状況によってはシラバスに修正が加えられる可能性もあることをあらかじめご了承ください